

## 平成21年度 第1回 東濃西部少年センター運営協議会 議事録

日時 平成21年7月8日(水)午後3時から午後4時45分  
場所 東濃西部総合庁舎 5階南会議室

### 次 第

1. 運営協議会委員16名中12名の出席で、会議の成立を確認(遅れて1名出席、総数13名)

2. 委員の自己紹介

3. 石原所長より 運営協議会委員長の選出について説明

4. 村瀬委員長の挨拶に続き、平成20年度歳入歳出についてセンター石原所長より説明

\* 村瀬委員長: 54ページの実質収支に関する報告はいいでしょうか? 747,297円が実質収支額となるということでもいいでしょうか?

センター石原所長: はい

他に質問無し、承認

5. 平成20年度街頭活動並びに相談活動の結果についてセンター石田より説明

\* 林瑞浪地区長: どんな相談があって、どのように対応して解決の方向に導かれているか伺いたい。

センター宮内: センターへの相談は匿名がほとんどである。内容によって関係機関を紹介して、解決へ導くようにしている。あくまでも、相談者自身による。学業は、不登校、進路、担任の先生のこと、学校のこと、学習障害と診断されたがどうしたらいいか等です。

家庭は、母親のこと、養育の悩み、孫のこと、躰、虐待などです。

虐待に関しては、子ども相談センターを紹介しています。センターから子ども相談センターへの報告は、相談者に確認してからにしています。

健康は、うつ病、体調が悪い、心が重い、拒食症、緘黙、チック症、自身の性格についてなどです。また、子どもが入れ墨をしたがどうしたらいいかなどの相談もありました。

他に質問なし、承認

6. 平成21年度4~6月の街頭活動並びに相談活動の状況についてセンター石田より説明

- \* 荒木：コンビニの店内や表の駐車場などで、子どもたちに声をかける現場に出会うことがあるが、どんな基準で声かけすればいいか。  
センター石田：(要覧の)街頭指導の「声かけ」基準を参考に 挨拶「おはよう」「お帰り」、会話、励まし、ねぎらい等について説明。  
コンビニの駐車場に集まっている少年たちに対する声かけは、ケースによって違うが、指導員には、まず挨拶の声かけをし、相手に不快感を与えないように話しかけ、注意するような態度をしないようにとっております。
- \* 村瀬委員長：平成21年度4～6月の相談件数の表について、文言の不統一について指摘  
センター宮内：検討して見直しします。
- \* 土岐市増田教育長：数字の統計化は大変いいことであるが、それを分析し、そこから読み取れることを合わせて記載し、生かして欲しい。今子どもたちの姿が どのようになっているかなどわかる表にするとよい。  
センター石田：はい、そういう方向で検討していきます。

## 7. 委員のみなさまより最近の状況について

- \* 多治見警察署生活安全課 蓑島課長  
平成21年1月～6月までの多治見署管内の少年非行等状況について、資料を使って説明
- \* ピアゴ多治見店 萩野下店長
  - ・店の現状は、1～7月現在まで高校生の万引きは激減している。  
「いらっしゃいませ」の声かけを第1に行っている。これが、万引きの減少につながっていると考える。
  - ・フードコートは小中高生の溜まり場になりやすいので、声かけをするように努めている。八キ八キと答えてくれる。風紀的に明るく元気な人が多い。
  - ・地域に根付いた店としていくために店頭を貸して、健全育成に協力して不幸な事件の減少につなげていきたいと思っている。中津店、瑞浪店もあるが、多治見店を窓口として、文書でお願いしていただければ、「防止」という点で協力させていただきたい。
- \* コンビニエンスストア協会 荒木会長
  - ・万引きは減少しているが、親御さん、本人の犯罪認識が薄れている。手口が巧妙化している。
  - ・コンビニエンスストア・セフティステーション活動のチラシを使って「安全・安心なまちづくり」に協力し、「青少年健全育成」に取り組んでいることを説明。  
コンビニを地域の為に役立てていただければ協力する。
- \* 多治見工業高校 富田校長

- ・偏った考えを持った高校生が事件を起こす。
- ・情報を取捨選択する能力に欠ける。
- ・学ぶ姿勢をつくるのが、問題行動への意識の変化につながる。
- ・孤独感・孤立感が強い。携帯で結ばれていても、見かけの友だちである。そんな子どもたちではあるが、周りの子がSOSを発信してくれることがある。
- ・自分の子どもの行動の疑問や悪いことを他の子どもにぶつける。自分の子どもの指導ができない。
- ・繰り返し、繰り返しやりとおすことで、授業を受ける姿勢を作っていく。
- ・生徒の意識改革以前に職員の意識改革が必要である。

## 8. オブザーバーの方から日頃の街頭活動について

### \* 多治見地区 坪井副地区長

- ・万引きは減少しているが、ある地区では小学生の万引きが多い。小学校では、親を集めて指導した。コンビニなどでは、防犯カメラを活用してもらうとよい。
- ・通常の声かけ運動では、大勢集まっている子どもたちへの声かけが難しい。
- ・イベントの場所の提供があれば声をかけて下さい。子どもたちの成長にもつながる。

### \* 瑞浪地区 林地区長

- ・瑞浪地区は38名の指導員、市民会議が母体となって、その他に民生委員、PTAからなっている。
- ・7月1日から、夏季特別巡回活動が始まっている。
- ・立入調査で店に入ると、怪訝な顔をされる。
- ・携帯電話についての研修を瑞浪地区で考えている。

ピアゴ多治見店 萩野下店長 立入調査で入店されるときは、ピアゴでしたらサービスカウンターへ申し出て下さい。

### \* 土岐地区 伊藤地区長

- ・土岐は56名、子どもたちに悪いことをさせないために声かけをする。いつも周りに目を配り普段の状況を見る。
- ・毎日のちょっとした声かけが必要。指導日だけの指導が指導ではない。日々の何気ない声かけや子どもたちを見ること、挨拶程度の声かけ、当たり障りのない話をして、「みんなが見守っているよ」ということが子どもたちに伝わって、防止につながればいい。
- ・一番悪い所は、JR土岐市駅前。下校時に高校生が集まって情報交換する(特に春・夏場)。子どもたちにとっては当たり前だが、たくさん集まると威圧感がある。有職少年はお金を持っているので注意しておく必要がある。
- ・土岐市駅には通路に壁があり、物を隠し・人が隠れることができるので注意する必要がある。

- ・万引きや不純異性交遊については、自分は把握していない。
- ・子どもに危険が及ぶ情報を教えて欲しい。

センター宮内 ぎふポータルの「安全・安心メール」を利用すると不審者情報が分かります。

- ・今年から指導員の連絡網を作って活用している。その点は、昨年よりよくなった。

次回 第2回運営協議会は平成22年1月7日開催を予定していることを伝えて終了。